

手袋の使用に関するリーフレット

「医療用手袋」は医療行為や医療的ケアで使用される単回使用(Disposable)のものを示し、下記が該当する

- 1) 検査や診察用手袋 未滅菌または滅菌
- 2) 手術での使用に適した厚み、弾性、強度のある滅菌手袋
- 3) 化学療法用の手袋 これについてはこの文書の中では言及しない
清掃などに使われる多用途手袋(非滅菌)についてもここでは言及しない

手袋装着の目的は2つ

- ① 医療従事者の手に体液が付着することを防ぐ
- ② 病原微生物の環境への伝播、医療従事者と患者の間や患者間の伝播のリスクを少しでも低減させる

以上より、手袋は**血液やその他の体液曝露(粘膜や正常ではない皮膚との接触も含む)**が予測される場合や、**接触予防策やアウトブレイク**の状況下などの患者のケア時に使用することが推奨される。

手袋の使用は医療従事者の手の汚染を減らし、医療現場における病原微生物の伝播を減らすことが複数の研究で確認されている。しかし、手袋を装着しても手を全ての汚染から完全に守ることはできない。ピンホールや手袋を外す操作により手が汚染される可能性がある。このため、手袋を外した後に手指消毒、または手洗いによる手指衛生を行うことが必要である。

手袋の使用による手指衛生遵守への影響については明らかになっていない。しかし、例えば、接触予防策が必要な患者の一連のケアの間に手袋を装着し続け、手指衛生が必要な時(つまり「手指衛生の瞬間」が発生した時)に手袋を外して手指衛生を行わない場合は、病原微生物の伝播に繋がる。

手袋の不適正な使用

- ・必要のない時に手袋を使用するのは資源の無駄使いであり、感染伝播防止にも効果はない
- ・手指衛生をし損ねることにも繋がる
- ・不適切な保管により汚染された手袋や、不適切なタイミングや手技での手袋の着脱も、病原微生物伝播の原因となる

医療従事者は自分たちの業務の中で、**どういう時に手袋の装着や交換が必要か…そしてどういう場面では手袋が必要ないのか…さらには手袋の着脱と手指衛生を厳密にいつ行うのか**について、明確に知る必要がある ってことだね。

WHO手指衛生ガイドライン2009 手袋適正使用「ピラミッド」

滅菌手袋

【無菌的な操作が必要な場合】

手術、分娩、透視下で行う侵襲的操作、中心静脈ルートの挿入や取り扱い、中心静脈栄養剤、化学療法剤の調製

【患者と直接的な接触】

血液、粘膜、正常ではない皮膚との接触、高リスク病原微生物の存在が示唆される状況、感染症パンデミック時、緊急対応、末梢ルート確保と抜去、採血、末梢ルートの接続を外す、直腸診・内診、開放性の気管内吸引

【患者と間接的な接触】

膿盆を空にする、使用後器材の取り扱いや洗浄、汚物の取り扱い、床の体液汚染の拭き取り

未滅菌手袋

一定程度以上の
体液曝露リスクあり

【患者と直接的な接触】

血圧測定、脈拍測定、検温、皮下・筋肉注射、入浴や更衣の介助、患者の搬送、浸出液がない耳や目のケア、血液の流出が起こらない静脈ルート関連の操作

【患者と間接的な接触】

電話、電子カルテ記入、服薬介助、食事の配膳や下膳、リネン交換、酸素カニキュアや非侵襲的な換気補助器材の設置、病室の家具の移動

手袋は使用しない
体液曝露リスクは
低い/ない
(接触予防策では
必要な場面で使用)

手袋ピラミッド：いつ手袋を使うべきか
(使わないべきか) 判断するための基準

手袋は**標準予防策**と**接触予防策**の原則に準じて使用する。ここでは実際の臨床現場において手袋を使用しない場面、および未滅菌または滅菌手袋を使用する場面の具体的な例を挙げている。手袋の使用/不使用に関わらず、手指衛生は行う必要がある。



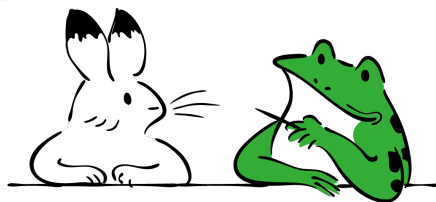
手袋をつける/外す時

	適応
手袋をつける	1) 清潔無菌操作の前 2) 血液やその他の体液への曝露や、正常ではない皮膚や粘膜との接触があると予測される場合(清潔操作の有無と関係なく) 3) 接触予防策が適応されている患者やその患者周囲環境に触れる前
手袋を外す	1) 手袋が破れた直後 (または破損が疑われた直後) 2) 血液やその他の体液への曝露や、正常ではない皮膚や粘膜との接触が完了した時 3) 一人の患者およびその患者の周囲環境との接触、もしくは患者の汚染部位との接触が完了した時 4) 手指衛生の機会が発生した時

手指衛生の「5つの瞬間」と手袋使用の3つの原則

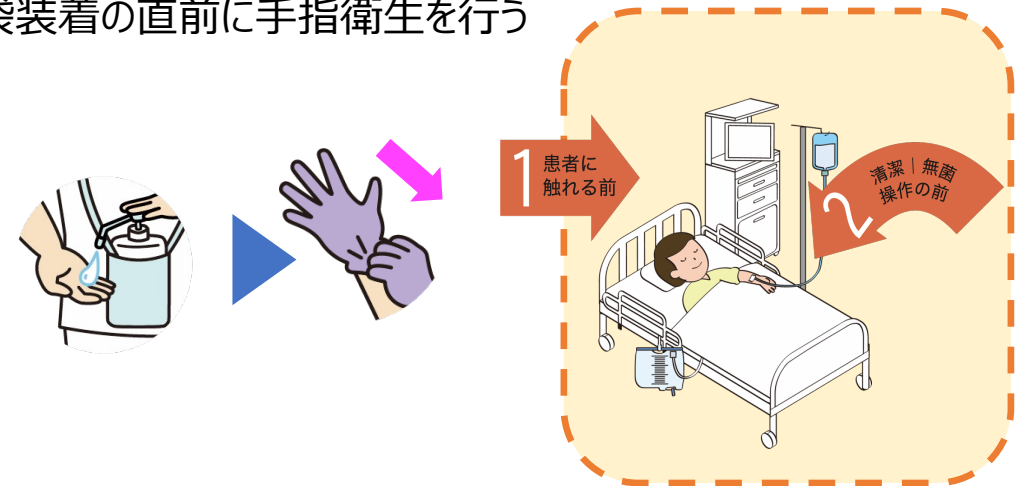
- 手袋を着用して何かに触れる前に手指衛生の瞬間が発生する場合、**手袋着用前**に手指衛生を実施する (1の瞬間,2の瞬間)
- 手袋を着用して何かに触れた後に手指衛生の瞬間が発生する場合、**手袋を外した直後**に手指衛生を実施する (3の瞬間,4の瞬間,5の瞬間)
- 手袋を着用した状況で手指衛生の機会が発生した場合は、**手袋を外して直ぐ**に手指衛生を実施する (1~5の5つの瞬間全て)

最後に書いてある、**手袋を着用した状況で手指衛生の機会が発生した場合**…って
いうのは、**どういうこと**だろう？

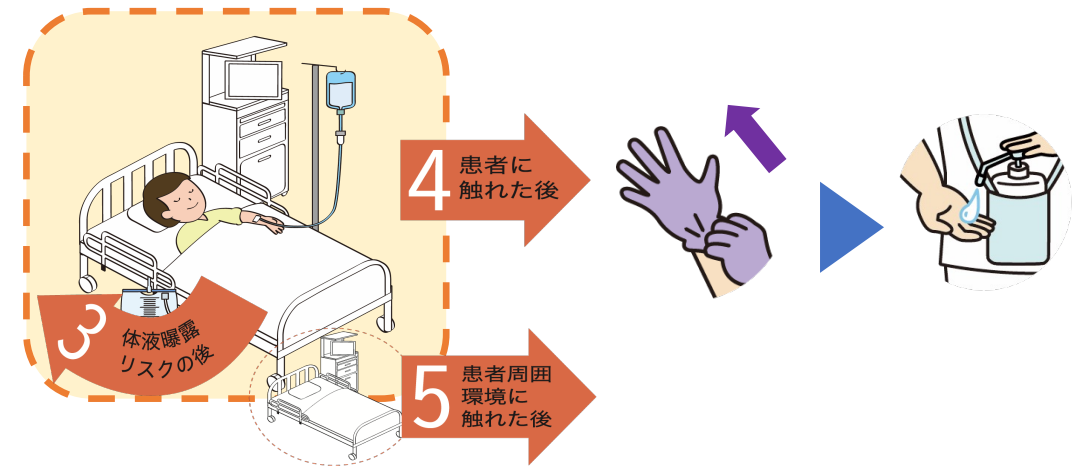


「手指衛生の機会」には**起点**と**終点**があったよね。
あ、ここは手指衛生の機会の**起点**だな！という時に**手袋をつけていたらそれを外し、その直後にすぐ手指衛生をする**ということだね。

「**～の前の瞬間**」で手袋を装着する場合、
手袋装着の直前に手指衛生を行う



「**～の後の瞬間**」で手袋を装着していた場合、
直ちに手袋を外して手指衛生を行う



～の後+～の前の「**同時発生**」の場合は手袋を交換し
素手の時に必ず手指衛生を行う



「手袋つけっぱなし」は「手指衛生をしていない」危険な手！

使用する手袋の種類

アルコール手指消毒剤との反応を防ぐため、パウダーフリーの製品の使用が、一般的に推奨される。

手袋の再使用/再処理

- ・医療用手袋は単回使用が前提の製品であるため、(供給が不十分な状況で行われがちな)手袋の上からの消毒や再処理は非推奨であり、行われるべきではない。
- ・現状では、標準化され質が保証された、安価で安全な手袋の再処理方法は存在しない。

医療施設における手袋の再使用が行われないようにするために、不適切な手袋の使用を削減するための教育活動や、質の高い手袋が安定して補充できるように購入を計画するなど、あらゆる策を講じるべきである。

医療現場における手袋使用に関するキーメッセージのまとめ

- 手袋の使用は下記を満たす場合に限り、感染対策として有効である
 - 適正に使用されている
 - 手指衛生が必要な時には、手指消毒もしくは手洗いが行われている
- 安全な手袋の使用には、下記が含まれる
 - 着用時に手袋を汚染させない、正しい付け方
 - 着用していた医療従事者の手を汚染させない、正しい外し方
- 不必要、不適切な手袋の使用は、資源を無駄にするだけでなく、病原微生物の伝播リスクの増加に繋がる
- 医療従事者は、手袋の使用や交換頻度を最小限にできるように、業務の流れを計画・実践し、可能な限り非接触的に業務を行うトレーニングを受ける必要がある
- 手袋が破損した際には、速やかに交換と手指衛生を行う
- B型肝炎、C型肝炎、HIV感染症の高慢延国における30分を超える長時間の処置、大量の血液や体液との接触が予測される手術、一部のハイリスクの整形外科的手術に限り、二重手袋の使用は妥当とみなされる
- 石油から精製された保湿剤(ワセリン)はラテックス手袋の強度低下、一部の手指消毒剤は手袋のパウダーとの反応に繋がる可能性がある

手袋の使用に関する推奨事項5つ

- A 手袋の装着・脱着はいかなる状況においても「5つの瞬間」に影響を与えることはなく、手指衛生行動の代用にはなり得ない。
- B 体液曝露防止のために手袋を使用する場合、それが起こるであろうと予測することが妥当な場合にのみ使用する。
- C 一人の患者のケアや治療が終わった時点で必ず手袋を外す。同じ手袋で複数の患者のケアや治療にあたらぬ。
- D 一人の患者のケアの中でも、感染/汚染部位から、別の部位に移る場合、粘膜や医療デバイスに触れる場合は、手袋を交換する、または外す。
- E 手袋の再使用や消毒しての使用は推奨されない。

未滅菌手袋のつけ方・外し方

「手袋をして患者に触れる」際に「手指衛生の瞬間」が発生する場合は、手袋装着前に手指消毒または手洗いによる手指衛生を行う

手袋のつけ方



箱から手袋を出す。



触れる範囲を手首周辺に限定する。



手袋をつける。



手袋を出す。触れる範囲を手首周辺に限定する。



対側の前腕に触れないよう、手袋をした手で外側表面をひっかけようにして、手袋をつける。

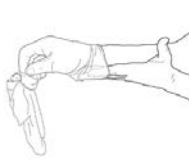


手袋をつけた後は、手袋をつけた目的と関係ない物に触れてはいけない。

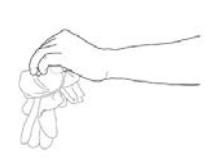
手袋の外し方



対側の前腕に触れないよう注意しながら、手首の近くをつまみ、ウラ返しになるように手袋を外す。



外した手袋を手袋をした手で持ち、手袋と手首の間に素手を入れ、外した手袋を外から包むように外していく。



外した手袋を捨てる。

この後、手指消毒または手洗いによる手指衛生を行う